

学習指導案

〔校内研修〕



第1回(4/25)



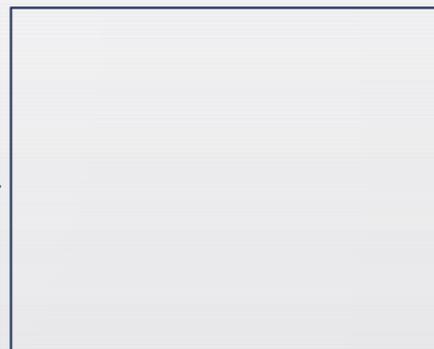
第2回(5/16)



第3回(5/30)



第4回(6/13)



計画訪問(7/4)

〔学校行事〕



対面式(4/8)



部活動オリ(4/11)



東球祭(5/26)



少年の主張(6/1)

令和4年度 富岡市立東中学校 計画訪問要項

令和4年7月4日(月)

◎ 日程

- 1 指導主事来校 8:10
- 2 事前打合せ(会議室) 8:15~ 8:25
- 3 参観授業 1校時 8:30~ 9:20
2校時 9:30~10:20
3校時 10:30~11:20
4校時 11:30~12:20
※給食・清掃・学活 12:20~13:40
- 4 全体会(Google meet) 13:40~14:00
- 5 班別授業研究会 14:00~15:40
- 6 管理職との情報交換 15:40~16:20

来校者

西部教育事務所
 管理主監 岩崎 聡 様
 主任管理主事 中澤 伸一 様
 指導主事 小林 淳子 様
 指導主事 岡部 隼人 様

富岡市教育委員会
 教育長 服部 幸雄 様
 教育委員 石井 潤 様
 教育部長 長谷川 馨 様
 学校教育課長 杉山 直人 様
 課長補佐兼係長 中野 隆之 様
 管理主事 青木 康浩 様
 指導主事 見友 文子 様
 指導主事 柴山 美徳 様
 指導主事 齋藤 晴紀 様
 指導主事 後藤 将徳 様

◎ 研究授業及び授業研究会

◇指導主事控え室:会議室

班	A	B	C	D	E	F
担当	小林指導主事	岡部指導主事	見友指導主事	柴山指導主事	齋藤指導主事	後藤指導主事
1校時 8:30 9:20	1-1 国語 黒澤 健太 (1-1 教室)	1-3 数学 大佐古倫徳 (1-3 教室)	2-1 理科 堤 詩織 (第1理科室) ※1 齋藤 雄紀	3-1 英語 諏訪 健斗 (3-1 教室)	3-3 道徳 高野真希子 (3-3 教室)	2-4 社会 春木 彩利 (2-4 教室)
2校時 9:30 10:20	3-2 国語 青山 慎太郎 (3-2 教室)	3-1 数学 三宅 賢 (3-1 教室)	1-1 理科 大嶋 翔太 (第2理科室)	1-2 英語 村田 真子 (1-2 教室)	2-3・4 体育 清水 拓巳 (東多目的室)	3-3 美術 中村 敦子 (美術室)
3校時 10:30 11:20	2-4 国語 新嶋 拓哉 (2-4教室)	東雲(数学) 油原 満 (東雲1組教室)	1-2 音楽 山下 晃人 (音楽室)	2-2 英語 山崎 誠弘 (2-2 教室)	1-3 体育 依田美沙紀 (1-3 教室)	3-1 社会 山形 敦也 (3-1 教室)
4校時 11:30 12:20		1-2 技術 荻野 裕介 (技術室)				
全体会	会議室 ⇄ リモート ⇄ 各教室 (13:40~14:00)					
授業研究会 14:00 15:40	3-2 教室	3-1 教室	2-1 教室	2-2 教室	2-3 教室	2-4 教室

※1 東雲学級3組生徒サポート

◎全体会次第(進行:教頭)

- 1 開 会
- 2 校長挨拶
- 3 指導主事紹介
- 4 西部・市教委より指示伝達
- 5 閉 会

◎班別授業研究会次第(進行・記録は交互)

- 1 開 会
- 2 自己紹介
- 3 授業説明(授業者)
- 4 研究協議
- 5 指導講評(指導主事)
- 6 閉 会

計画訪問授業 自己評価票

学年・学級		指導者		指導主事	
教科・領域	単元名(題材名・主題名)				
令和4年 月 日 () 校時 () 教室)					
本時の指導についての評価の視点					評 価
1 学習指導要領を踏まえ、身に付けさせたい資質・能力が明確な「目標」や「ねらい」となっていたか。					A・B・C
2 児童生徒の言葉や前時までの学習を生かして「めあて」を設定し、本時の学習への見通しをもたせていたか。					A・B・C
3 児童生徒が多様な考え方に触れ、自分の考えを広げたり深めたりできるような、話し合いや交流などの対話的な場面をつくることができたか。					A・B・C
4 視点を明確にした「まとめ・振り返り」を行い、児童生徒に本時の学びを自覚させ、次の学びや生活へのつながりを意識させることができたか。					A・B・C
5 児童生徒の思考のながれに沿った構造的な板書やICT機器の効果的な活用により、多様な考えや新たな価値を生み出すことができたか。					A・B・C
6 学習規律が確保され、児童生徒のよさを認め伸ばすとともに、自己決定の場を与える指導であったか。					A・B・C
(備 考) 授業を行っての感想や質問事項など					

※ A(良好)・B(おおむね良好)・C(改善が必要)のいずれかに○を付ける。

<自己評価票の活用のねらい>

計画訪問の分科会での研究協議において、授業者と指導主事とが共通の視点から授業研究を行い、指導力の向上や授業の改善を図っていくために、「自己評価票」を活用します。

<自己評価票活用の手順>

- ・授業後、各授業者は「自己評価票」に評価を記入してください。(記入する時間がとれなかった場合には、分科会のときに記入していただきます。)
- ・授業を行っての感想や、研究協議での質問事項等については、「備考欄」に記入してください。
- ・授業者による授業説明の後に、「自己評価票」を参考にして研究協議を行います。

単元の内容

(1) 学習指導要領の位置付け

A 数と式 (2)

- ア 文字を用いることの必要性和意味を理解すること。
- イ 文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知ること。
- ウ 簡単な一次式の加法と減法の計算をすること。
- エ 数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりすること。

(2) 身に付けさせたい資質・能力

【知識及び技能】

- ・文字を用いることの必要性和意味を理解することができる。
- ・文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知ることができる。
- ・簡単な一次式の加法と減法の計算をすることができる。
- ・数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・具体的な場面と関連付けて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・文字を用いることよきに気付いて粘り強く考え、文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしていたりしている。

系統・教材観

小学校算数科では、第4学年までに、数量の関係や法則などを数の式や言葉の式、□、△などを用いた式で簡潔に表したり、式の意味を読みとったりすることや、公式を用いることを学習している。また、第5学年では簡単な式で表されている関係についてその関係の見方や調べ方を学び、第6学年では数量を表す言葉や□、△などの代わりに、 a や x などの文字を用いて式に表したり、文字に数を当てはめて調べたりすることを学習している。

中学校数学科において第1学年では、数量の関係や法則などを、文字を用いて式に表したり、式の意味を読み取ったり、文字を用いた式の計算をしたりして、文字を用いることよきについて学習する。指導に当たっては、小学校算数科における学習の状況に十分配慮し、例えば、数量の関係や法則などを数や言葉の式、□、△などを用いた式に表してその意味を読み取ったり、数を当てはめて調べたりする活動を行うなどして、文字のもつ一般性について丁寧に取り扱い、文字に対する抵抗感を和らげながら漸次理解することができるようにする。この学習の後、一元一次方程式の学習を行っていき、文字を用いた式についての理解を深めていく。

生徒の実態

【知識及び技能】

- ・正の数と負の数の必要性和意味を理解している生徒が多い。
- ・正の数と負の数の四則計算をすることができる生徒が多いが、「同符号であれば四則はいつでも+」など、四則の計算が身につけていない生徒もいる。
- ・平均を求める場面などで、正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることができる生徒が多い。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・算数で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる生徒が増えてきた。
- ・正の数と負の数を平均を求める場面などで活用することができる生徒が多い。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・正の数と負の数のよきに気付いて粘り強く考え、正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、正の数と負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしていたりしている。毎授業の振り返りでは、自分が分かったことと理解不十分なところを記述することができている。

単元計画

全6時間予定

時	学習活動 ※「_」は記録に残す評価
1	・文字の部分が同じ項どうしを1つにまとめて計算する。 (ア) (ウ)
2	・1次式と数との乗法の計算の方法を考え、その計算をする。(ア)
3	・1次式を数でわる除法の計算の方法を考え、その計算をする。(ア)
4 本 時	・1次式と1次式の加法、減法の計算の方法を考え、説明する。(イ)
5	・日常生活や社会の事象における問題を、文字を使った式を利用して解決したり、解決の過程をふり返って、新たな問題を見いだしたりする。(イ) (ウ)
6	・等式や不等式の意味を考え、それらを使って数量の関係を表す。(ア) (ウ)

単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

文字を用いて数量の関係や法則などを式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を培うとともに、文字を用いた式の計算ができるようにする。

(2) 評価規準

【知識・技能 (ア)】

- ・文字を用いることの必要性和意味を理解している。
- ・文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知っている。
- ・簡単な一次式の加法と減法の計算をすることができる。

【思考・判断・表現 (イ)】

- ・具体的な場面と関連付けて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。

【主体的に学習に取り組む態度 (ウ)】

- ・文字を用いることよきに気付いて粘り強く考え、文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしていたりしている。

指導方針

★1人1台端末の活用

- ・文字が1つの1次式に限定して、項のまとめ方について学習し、「なぜ」そうなるのか教員が説明するのではなく、生徒の言葉で説明させることで、1次式と数との乗法、除法や1次式どうしの加法、減法について計算できるようにする。
- ★家庭学習と本時の授業をつなぐために、ミライシードのオクリンクを予習型で活用する。本時の授業の内容を理解することで解くことができる問いを事前に配布し、授業の前に提出させる。授業は、予習してきた問題の理解度を確認してから展開する。
- ★生徒が自ら考え話し合うように、ミライシードのオクリンクを活用する。多様な考え方が想定される問題で、自分の考えと友達の考えを比べて、共通点や相違点を考えることで理解を深めることにつなげる。
- ★生徒が自分の学びを理解し表現できるようになるために、授業の振り返りでは、GoogleFormを活用する。質問事項は、①授業の理解度(5段階評価)、②授業で分かったこと・分からなかったこと・質問等(記述式)の2つの項目の記入とする。

本時の学習

【ねらい】 1次式の加法と減法の計算の方法について、既習の計算の方法をもとにして考え説明することで、その計算の仕方を理解できるようにする。

板書計画

めあて 1次式の加減は、どのように計算するの？

まとめ ・① () をはずす、②同類項をまとめる。
・減法は加法に直す。・式の加減では、() をつける。

考えよう Aさん 1本x円の鉛筆5本と120円の消しゴム1個
Bさん 1本x円の鉛筆3本と100円の消しゴム1個

・代金 Aさん $5x + 120$ (円), Bさん $3x + 100$ (円)
・代金の和
 $5x + 120 + 3x + 100?$ $5x + 120 - 3x + 100?$
 $(5x + 120) + (3x + 100)?$ $(5x + 120) - (3x + 100)?$

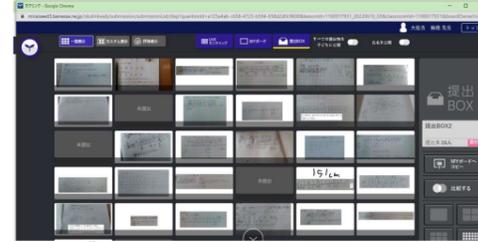
黒板

P.89Q3(2) $3a - 5, -2a + 4$ の和と差

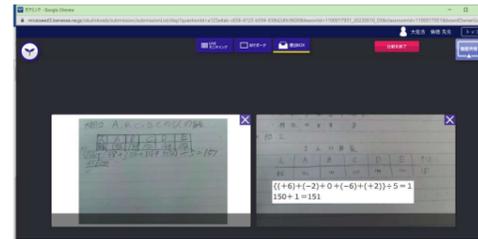
P.89Q4(3) $4(a - 8) - 2(5a + 6)$

大型提示装置

【展開：1】 オクリンク①



【展開：3】 オクリンク②



授業改善の視点

本時のねらいを達成させるために、以下の手立てを行う。
・1次式の減法の計算で、() の重要性と減法の仕方に気づけるように、オクリンクを用いて自分の考えと友達のを比較させる。

本時で使用するアプリ等

【教師】ミライシード (オクリンク)
デジタル教科書、スプレッドシート
【生徒】ミライシード (オクリンク)
GoogleForm

導入 5分

1. 本時のめあてをつかむ (5分)
○オクリンクで事前に配布しておいた問題を確認する。
考えよう Aさん 1本x円の鉛筆5本と120円の消しゴム1個
Bさん 1本x円の鉛筆3本と100円の消しゴム1個
AさんとBさんの代金は?
AさんとBさんの代金の和と差は?
T: AさんとBさんの代金は?
S: Aさん $5x + 120$ (円), Bさん $3x + 100$ (円)
T: $5x + 120, 3x + 100$ は〇〇式?
S: 1次式
T: 1次式の和や差ということは、今日は1次式の〇〇法?
S: 加法、減法

<めあて>
1次式の加減は、どのように計算するの？

T: $2x + 3x$ は?
S: $5x$
T: これも1次式の加法だね。

指導上の留意点 (★: 1人1台端末の活用)

○本時の授業に臨む前に、内容の分からないところを把握するために、予習を指示する。
★課題を理解し、自ら取り組むことができるように、オクリンクで事前に課題を配布する。

追究 30分

2. 1次式の加減の計算の仕方を考え説明する (20分)
T: $5x + 120$ に $3x + 100$ を加えた和はどんな式になる?
S: $5x + 120 + 3x + 100, (5x + 120) + (3x + 100)$
T: () はいる?
S: いらぬ。() ははずして同類項をまとめる。
T: $5x + 120$ から $3x + 100$ を引いた差はどうなる?
S: $5x + 120 - 3x + 100 = 2x + 220, (5x + 120) - (3x + 100) = 2x + 20$
T: どっちが正しいの?
S: $2x + 20$
T: なぜ?
S: 差は鉛筆2本と20円だから。
T: () をつけて減法を計算するときはどうすればいい?
S: 「-」を「+」にかえて、引く数の符号をすべて変えればいい。
○見つけたことを別の計算にあてはめて説明する (10分)
T: $3a - 5, -2a + 4$ の和と差はどうやって計算するの?
S: () をつけてひとまとまりとみて、計算する。

指導上の留意点 (★: 1人1台端末の活用)

★1次式の減法の計算で、() の重要性と減法の仕方に気づけるように、オクリンクを用いて自分の考えと友達のを比較できるようにする。

【思考・判断・表現】

1次式の減法の計算の方法について、同類項の計算の方法をもとにして説明している (1台端末・発言)

まとめ・振り返り 15分

3. 本時のまとめをする (5分)
T: 1次式の加減はどのように計算するの?
○発表させる。

<まとめ>

・① () をはずす、②同類項をまとめる。
・減法は加法に直す。
・式の加減では、() をつける。

4. 練習問題に取り組み、振り返りを行う (10分)
T: $4(a - 8) - 2(5a + 6)$ を解こう。

<振り返り>

・減法を加法に直すと、後ろの()の中の符号がすべて逆にするところ。

指導上の留意点 (★: 1人1台端末の活用)

○まとめは、自分の言葉でまとめることができるように、板書にポイントを残しておく。
★振り返りでは、自分の学びを理解できるように、GoogleFormを用いて、①授業の理解度、②授業で分かったこと・分からなかったこと・質問等を記入させる。

単元の内容

(1) 学習指導要領の位置付け

本教材は、『中学校学習指導要領』第2章各教科第1節国語第2各学年の目標及び内容第2学年2内容の、

- ・「知識及び技能」指導事項(1)ア「言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくこと。」(2)イ「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。」
- ・「思考力・判断力・表現力A」指導事項(1)イ「自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。」、ウ「資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。」

(2) 身に付けさせたい資質・能力

【知識及び技能】

- ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。
- ・情報と情報の関係の様々な表し方を理解し使うことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。
- ・資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・積極的に表現を工夫し、学習課題に沿って提案することができる。

系統・教材(題材)観

本単元は、「話すこと・聞くこと」の領域に属する。

第1学年では「話の構成を工夫しよう」という単元で、好きなことをスピーチで紹介する活動を通じて、話の構成を考えて魅力的なスピーチができるようになることをねらいとして取り組んだ。

第2学年では、資料を示してプレゼンテーションをする活動を通じ、話の構成や資料を工夫して相手の心を動かす提案ができるようになることをねらいとして取り組む。

そこで、本単元では「群馬の魅力伝えよう」をテーマにして、4～5人班でプレゼンテーションを考える。そこから班のテーマを決め、伝える相手が知りたいことは何かを想定し、情報を集める。「相手の心を動かし、行動を促す」ことを目的とし、集めた情報をもとに、相手により伝わりやすくするためにスライドで資料を作成し、進行案を考える。そして映像をもとに内容や伝え方を手直しし、発表を行う。

この後、第3学年で「説得力のある構成を考えよう」という単元で聞き手の心に訴えることを目的としたスピーチを行う。その活動を通じて、社会生活における多様な考え方を想定して、相手を説得できるような構成や展開を考える力を養うことをねらいとして取り組む。

生徒の実態

【知識及び技能】

- ・第1・2学年で行った「少年の主張」の活動を通じ、よりよい発表を聞いて、自分の心が動かされたことを実感したことを振り返りに記述している生徒が多い。
- ・情報を扱う活動において、端末を活用して情報を整理し、構成を工夫して表すことができる生徒がほとんどである。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・第1学年「話の構成を工夫しよう」の単元では、多くの生徒が自分の考えや根拠を明確に示した文章構成を考えることができていた。
- ・資料や機器を示しながら発表をする活動は、本単元で初めて取り組む。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・積極的に集めた情報を整理し、まとめて提案することができる。

単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

資料を示してのプレゼンテーションを準備・実施することを通して、目的に応じて社会生活の中から情報を集め、資料や話の内容を工夫して相手に伝える力を養う。

(2) 評価規準

【知識・技能(ア)】

- ①情報と情報の関係の様々な表し方を理解し使っている。
- ②言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。

【思考・判断・表現(イ)】

- ①自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。
- ②資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。

【主体的に学習に取り組む態度(ウ)】

- ・積極的に表現の工夫し、学習課題に沿って提案しようとしている。

単元計画

全6時間予定

時	学習活動	※「_」は記録に残す評価
1	班のテーマを決め、必要な情報は何かを話し合った上で、一人一台端末を用いて情報収集をする。(ア) ①	
単元を貫く課題:班で資料を示してプレゼンテーションをしよう		
2 ・ 3 ・ 4	集めた情報をもとに発表の進行案と提示資料(スライド)を作成する。(イ) ① (第4時:記録に残す評価)	
5 本 時	映像をもとに、発表の内容や仕方を手直しする。(イ) ②	
6	プレゼンテーションを行い、よりよい提案に必要なことを考える。(ア) ②、(ウ)	

指導方針

★1人1台端末の活用

- ・単元を貫く課題を示すことで、生徒が本単元の学習に見通しをもてるようにする。(つかむ過程 第1時)
- ★相手や目的を確認し、書き残すことで、相手が何を知りたいかを踏まえた上で情報収集をさせるようにする。(つかむ過程 第1時)
- ★Google ドキュメントやスライドの共同編集を使って進行案や資料を作ることで、班の他の生徒の進捗や内容を確認しながら活動できるようにする。(追求する過程 第2・3・4・5時)
- ★リハーサルにおいて、大型モニターの映り方を確認したり、他の班に聴いてもらって客観的なアドバイスをもらったりすることで、「相手にどう伝わっているか」を意識した発表を目指して工夫できるようにする。(追求する過程 第2・3・4・5時)
- ・班のプレゼンテーション後に、互いの提案を評価し合うことで、よりよいプレゼンテーションのために必要な工夫を考えられるようにする。(まとめる過程 第6時)

本時の学習

【ねらい】映像をもとに、発表内容を手直しする活動を通して、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。

授業改善の視点

本時のねらいを達成させるために、以下の手立てを行う。

- ChromeBook で発表の様子を録画した映像を見て、相手からの見え方を客観的に確認する。
- 自分達の映像を見る活動を2回行うことで、1回目と2回目での変容が分かるようにする。

本時で使用するアプリ等

- 【教師】ドキュメント、ムーブノート（ミライシード）
- 【生徒】ムーブノート（ミライシード）、スライド、タイマー

【展開：2～5】リハーサルの手順を示す

【リハーサルの手順】

- ①【役割分担】スライドを提示する人、自分達の発表を録画する人、タイマーを表示する人を決める。
- ②【リハーサル1回目】動画を撮りながらプレゼンテーションを行う。
※今回は大型モニターを使わず、誰か一人の画面でスライドを映し、録画しているChromeBookに向けて提示し、操作しながら発表する。
- ③【手直し】録画した映像をもとに、自分たちの発表内容を手直しする。手直ししたところは進行案に赤ペンで書き込む。
- ④【リハーサル2回目】※②と同じ手順で

【展開：6】ムーブノートで、手直しできたところを共有する。



魅力的な提案をしよう

めあて

映像をもとに、発表の内容を手直しよう

【手直しするポイント】

- 意見に対して根拠は適切か？
- 相手が知りたい情報になっているか？（スライドも含めて）
- 伝わりやすい話の組み立てになっているか？

【手直しをしたところは？】

↓ミライシード「ムーブノート」に記入し、読み合おう

振り返りの書き出し

映像をもとに手直しすること・・・

導入 10分

1. 本時のめあてをつかむ。

T：前時まで、プレゼンテーションに向けた進行案とスライドが完成しましたね。今日は発表に向けてリハーサルをし、自分達の映像を見ながら発表内容の手直しをしましょう。

<めあて>

映像をもとに、発表内容を手直しよう

T：学習記録にめあてを記入しましょう。

2. 本時の取り組み方について確認し、班で見通しをもつ。

T：モニターを見て、班でリハーサルの手順について内容を確認し、役割分担を決めましょう。わからないところは確認してください。

3. 手直しする視点を確認する。

T：次に、手直しする時にはどんなポイントで考えるとよいか、考えてみましょう。まずは2分、近くの友達と話し合ってください。

T：それでは、話し合ったことをもとにポイントをまとめていきます。

- 生徒の意見を聞きながら、
- 意見に対して根拠は適切か？
 - 相手が知りたい情報になっているか？（スライドも含めて）
 - 伝わりやすい話の組み立てになっているか？
- を黒板に記しておく。

指導上の留意点（★：1人1台端末の活用）

★大型モニターにリハーサルの手順を映し、それを見て生徒同士で話し合わせることで、なるべく短時間で手順の理解と役割分担をさせる。

追究 25分

3. 1回目のリハーサルを行う。

T：それでは手順に沿ってリハーサルを行いましょ。録画やスライドの準備をお願いします。

S：（リハーサルを行う）

4. 映像をもとに発表内容を手直しする。（15分）

T：次に、録画した映像を見て、発表内容やスライドの手直しをしてみましょう。

黒板に記されている、「手直しのポイント」を見ながら行いましょう。2回目の発表時に手直ししたところがわかるように、進行案に赤ペンで書き込んでください。手直しが終わったら、発表の仕方を練習しましょう。

5. 2回目のリハーサルを行う。

T：それでは、手直ししたものを使って、もう一度発表をしましょう。録画やスライドの準備をお願いします。

指導上の留意点（★：1人1台端末の活用）

★リハーサルを行う前に、録画する画面に発表者やスライドが映っていることを確認し、なるべく声が混ざらないよう、教室の壁側に向かってリハーサルを行うようにする。

★発表の声がなるべく混ざらないよう、撮影用の端末をなるべく発表者の近くに設置し、教室の外側を向いて発表するようにする。

【思考・判断・表現】

自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように、映像をもとに発表内容を手直しできている。（プリントの記述、ムーブノートの記述）

まとめ・振り返り 15分

6. まとめと振り返りを行う。

T：それでは、自分達が手直しできたところを探しながら、2回目の録画映像を見てみましょう。

T：ムーブノートを開き、手直しできたところを記入してひろばに送信してください。書き出しは「映像を見て手直しすること・・・」をお願いします。

<手直しできたところ>

映像を見て手直しすること・・・

- より適切な根拠を考えることができた。
- よりわかりやすい話の組み立てに直すことができた。
- スライドに、地図やイラストなど、よりわかりやすくするための資料を付け加えることができた。

T：ひろばに集まった内容を見ながら、今回の授業で学んだことを振り返り、学習記録に記入してください。

指導上の留意点（★：1人1台端末の活用）

★映像を見る際に、「手直しできた点を探す」という視点を設けることで、1回目と比べて変わった点に気づけるようにする。

★ムーブノートでなるべく多くの友達の考えを読むことで、手直しすることで良かった点に気づかせるようにする。

単元の内容

(1) 学習指導要領の位置付け

〔第1分野〕(2) 身のまわりの物質 (ア) 物質のすがた⑦

(2) 身に付けさせたい資質・能力

【知識及び技能】

- ・身の回りの物質の性質を様々な方法で調べる実験を行い、物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解することができる。
- ・実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付けることができる。
- ・気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を理解することができる。
- ・気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身に付けることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・身の回りの物質について、見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・身の回りの物質とその性質などの事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしている。

系統・教材(題材)観

小学校では、物質の性質や変化に関する内容として、第3学年で「物と重さ」、「磁石の性質」及び「電気の通り道」、第4学年で「金属、水、空気と温度」、第5学年で「物の溶け方」、第6学年で「燃焼の仕組み」について学習している。

ここでは、身の回りの物質はいろいろな性質をもっており、それらの性質に着目して物質を分類できることを観察、実験を通して見いださせるとともに、加熱の仕方や実験器具の操作、実験結果の記録の仕方などの技能を習得することができるようにする。

ここで扱う物質としては、身近な砂糖や食塩、金属などの固体の物質を取り上げ、それらについて密度や加熱したときの変化などを調べる観察実験を行う。

本単元は中学校での物質についての学習の導入として、様々な物質に親しませるとともに、問題を見だし見通しをもって観察・実験を行い、結果を分析して解釈し、物質の性質を見いだすことができ、物質の性質や変化について科学的に探究するための資質・能力を身に付けていくために、価値のある内容である。

この後生徒は「水溶液や状態変化」において、粒子のモデルと関連付けて学習する。

生徒の実態

【知識及び技能】

- ・物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うことを理解している。
- ・植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを理解している。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・木片を燃焼させるなどの活動を通して燃焼の仕組みについて追及する中で、物が燃えたときの空気の変化について、より妥当な考えをつくりだし、表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・燃焼の仕組みについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決をしようとしている。
- ・学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

【その他の実態】

- ・初めての化学分野の実験である。
- ・実験操作に時間のかかる生徒がいる。

単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

身のまわりの物質の性質を様々な方法で調べる実験を行い、物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解するとともに、実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付ける。

(2) 評価規準

【知識・技能(ア)】

- ・身の回りの物質とその性質、気体の発生と性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。

【思考・判断・表現(イ)】

- ・問題を見だし見通しをもって観察・実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。

【主体的に学習に取り組む態度(ウ)】

- ・物質のすがたに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

単元計画

全7時間予定

時	学習活動 ※「_」は記録に残す評価
1	実験操作①：メスシリンダー・温度計・電子天秤について正しい操作方法を知り、実際に操作する。(ア)
2	実験操作②：ガスバーナーについて正しい操作方法を知り、実際に操作する。(ア) <単元のめあて：身のまわりにはどのような物質があるだろうか>
3	白い粉末(砂糖・食塩・片栗粉)を区別するためにはどうすればよいか考え実験を立案する。(イ)(ウ)
4 本時	前時で計画した実験を実際に行い、白い粉末の正体を実験の結果から考察する。(イ)
5	金属に共通した性質は何か実験を通して見いだす。(ア)(ウ)
6	密度について知り、実際に密度を測定する。(ア)
7	問題演習を行い、密度の公式を活用できるようにする。(ア)

指導方針

★1人1台端末の活用

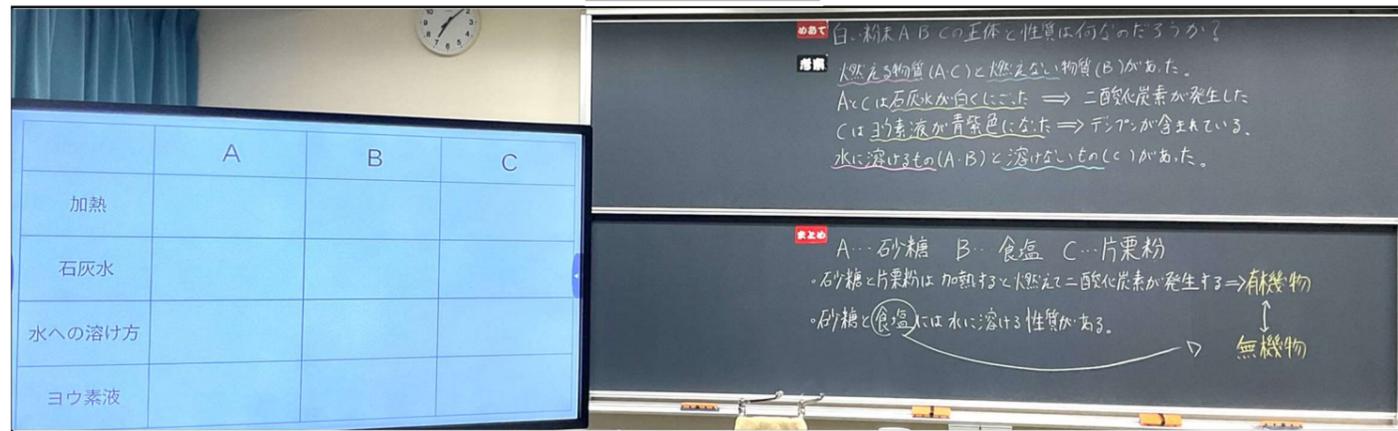
- ・実験操作の正しい方法を説明し、実際に操作させることで、実験器具の技能を身につけさせる。
- ・主体的に学習できるように、白い粉末を区別するためにはどんな実験が必要であるか、生徒に考えさせる。
- ・思考力・判断力・表現力を高めるために、実験の結果から何がいえるのか考察させ、班で意見を共有させる。
- ★考察場面での時間を確保するために、スプレッドシートを用いて、結果の共有の時間を短縮し、全ての班の実験結果を確認できるようにする。
- ・考察など何について考えればわからない生徒に対して机間巡視を行い、視点を与えている。
- ・実験の結果をまとめ、そこから金属にはどのような共通した性質があるか考えさせる。
- ・実験の操作に時間がかかる生徒に対して机間巡視を行う。
- ・実験の安全を確保するために、チェックリストを使用する。

本時の学習

【ねらい】 白い粉末の正体は何なのか、判断するために必要な実験を行い、物質には加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだせるようにする。

黒板

大型提示装置



【展開：4】 結果をまとめるスライドを示す。

	A	B	C
加熱			
石灰水			
水への溶け方			
ヨウ素液			

授業改善の視点

本時のねらいを達成させるために、以下の手立てを行う。
 ・自分たちで計画した実験を実際に行い、固有の性質と共通の性質を実感できるようにする。
 ・各班の結果を Google スライドに入力し、素早い共有をして、全体の結果から考察できるようにする。

本時で使用するアプリ等

- 【教師】 デジタル教科書・Google スライド
- 【生徒】 カメラ・Google スライド

導入 5分

1. 本時のめあてをつかむ (1分)
 ○前回どんな課題を設定したか確認させる。

<めあて>
 白い粉末 A・B・C の正体と性質は何なのだろうか？

2. 実験計画を確認する。(4分)
 ○ワークシートを見させ、前回の計画を確認させる。
 T：前回の授業で白い粉末 A・B・C の正体をどのようにして確かめるか計画しましたよね。どのような実験をしますか？
 S：加熱する。
 S：石灰水の変化をしらべる。
 S：水に溶かす。
 S：ヨウ素液の反応をみる。
 T：実験をする上での注意点はなんですか？
 S：机を整理して、実験を行う。
 S：ガスバーナーを使うからやけどに気をつける。

指導上の留意点

- 前時の課題を確認することで、本時で何をしていくか見通しを持てるようにする。
- 実験上の注意を確認することで、安全に実験を行えるようにする。

追究 35分

3. 計画した実験を行う。(20分)
 ○各班で分担した実験を行わせる。
 ・A・B・Cをガスバーナーで加熱し、物質が燃えた場合、集気瓶に入れて石灰水の変化を調べる。
 ・A・B・Cを水に入れ、溶け方を調べる。
 ・A・B・Cにヨウ素液を垂らし、反応を調べる。
 ・各班の記録係が実験をタブレットで撮影する。
4. 結果をまとめ考察する。(15分)
 ○実験から得られた結果を Google スライドに記入させる。(班の代表がクラスのスライドに入力)
 T：実験の結果を Google スライドの表に記入してください。
 T：自分の班以外の結果も見てください。(班で結果を確認する。)
 S：同じ結果になっているから、結果は正しいだろう。
 S：加熱では同じ性質だったけど、水への溶け方を違うな。
 T：各班の結果からどのようなことが言えますか？(班で考える)
 S：加熱した結果から B だけ燃えなかったことがわかる。
 S：ヨウ素液の反応から C は片栗粉だと考えられる。
 S：A と C の水へ **指導上の留意点 (★：1人1台端末の活用)** 粟粉であると考えられる。

- 各班で実験を分担させて行うことで、責任をもって実験を行うようにする。
- 机間指導を行うことで、実験が円滑に進むようにする。
- ★Google スライドで結果を共有させることで、各班のデータ集約を素早くできるようにする。
- ★カメラで実験の様子を記録させることで、考察の際に見返すことができるようにする。
- 考察では結果からどのようなことがいえるかをまとめさせる。

まとめ・振り返り 10分

5. 見出したことについてまとめ、振り返りをする (10分)
 T：考察から A・B・C の正体は何であると考えられますか？
 S：A が砂糖、B が食塩、C が片栗粉である。
 T：砂糖と片栗粉は加熱したときに燃え、二酸化炭素が発生していた。このような物質を有機物という。
 T：有機物以外の食塩のような物質を無機物という。

【思考・判断・表現】

様々な実験を行い、物質には固有の性質や共通の性質があることを見いだして、白い粉末の区別をすることができている。

<振り返り>

物質にはそれぞれ決まった性質があり、性質の違いから白い粉末の正体は何なのか判断することができた。
 ○視点：本時でどんなことを学んだか。
 単元の課題にたいしてわかったこと。

指導上の留意点

- めあてを繰り返し確認することで、めあてに正対したまとめが書けるようにする。

単元の内容

(1) 学習指導要領の位置付け

(3) 話すこと [やり取り] イ

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。

(2) 身に付けさせたい資質・能力

【知識及び技能】

・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を身につけることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

系統・教材(題材)観

- ・小学校の外国語科の「話すこと [やり取り]」の目標ア「基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする」を受け、「関心のある事柄」について即興で情報を交換したり、お互いの考えや気持ちなどを伝え合ったりすることを学習してきている。
- ・本単元では、エミリー、ソラ、アオイ、チェンが美術館を訪れ、「what」や「how」を使い、美術館に飾ってあるだまし絵には、何が描かれているのか、どんな物が描かれているのか、いくつあるのかを尋ねたり、答えたりしていく。その応答として、2つ以上の物や2人以上の人を答えるときには、名詞の後ろに「s」や「es」を付けるということを学ぶ。
- ・本単元を通して、Yes や No という、単純な答え方では答えられない疑問文の応答を身に付けるだけでなく、相手とのやり取りの際は、目標・場面・状況に応じて、それまでの学習や経験で蓄積した英語での話す力・聞く力を駆使して、即興で自分の力で質問したり、答えたりすることができる力を身に付ける。
- ・この後、現在形を使用した自分のことや相手との会話をさらに広げる表現の学習へとつながっていく。

生徒の実態

【知識及び技能】

- ・自分や相手、近くのものや遠くのことを、be 動詞や一般動詞を使って伝えることができる。
- ・既習事項の be 動詞や do や what、how を使用した疑問文に対する自分なりの答え方は多くの生徒が理解し、伝えたり、書いたりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・目的・場面・状況に応じた話題や話し方をすることができる。疑問文やそれに対する応答においては、生徒自身に関することや、身近なものに置き換えて、具体的に考えることができる。
- ・相づちやリアクションを多く用い、会話を続けることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・相手とのやりとりにおいて、どのように会話をしたらより会話を長く続けられるのか、自然に続けられるのか、を熱心に考えることができる。
- ・分からないことを友人や教員に質問し、解決することができる。

単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

what や how、do を使用した疑問文や、それに対する答えを用いて、ホゼ先生からの質問に答え、相づちの表現を効果的に利用し、会話を続けることができる。

(2) 評価規準

【知識・技能 (ア)】

・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を身につけている。

【思考・判断・表現 (イ)】

・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあっている。

【主体的に学習に取り組む態度 (ウ)】

・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

単元計画

		全10時間予定
時	学習活動	※「_」は記録に残す評価
1・2	相手が何をするのか尋ねる時には、「what」を文頭に置き、疑問文の形にすることを学ぶ。(ア) <Unit goal:ホゼ先生が知りたい自己紹介をしよう>	
3	2つ(2人)以上のもの(人)を表す場合、その名詞の後ろに「s」または「es」をつけることを学ぶ。(イ)	
4・5	数がいくつあるのか尋ねる表現では、「how many」を使うことを学ぶ。また、「how many」の後ろには複数形の名詞が続くことを学ぶ。(イ)	
6・7	ホゼ先生に自己紹介をする文章を考え、覚える。(ア)	
8 本時	パフォーマンステストでホゼ先生から質問される内容を予測し、自己紹介をする。(イ)	
9・10	パフォーマンステストをする。(ウ)	

指導方針

★1人1台端末の活用

- ・生徒の興味のあることや伝えたいと思うこと、または疑問やもっと知りたいと思ったことからめあてを作り、生徒が自分事として授業を受けるようにする。
- ・会話を続けるために必要な相づちやリアクションの練習を行い、活動で生かせるようにする。
- ・新出文法事項の定着を図るために、パターンプラクティスをし、生徒が即興で文章を作ることができるようにする。
- ・Unit goal の提示や各授業の振り返りを通して、次の授業に繋げ、Unit 内の授業が一貫性のあるものにする。
- ★本文理解の時間には、本文のみの読解にとどまらず、その後登場人物らが行う会話を予想し、グループごとに既習事項をもとにまとめ、google スライドを活用し、発表するようにする。
- ★ペアで実際に自分の自己紹介を発表し、自分の自己紹介をした後に、どんな質問をしたいかジャムボードに記入し合うことで、生徒の主体的な家庭学習へと繋げる。

本時の学習

【ねらい】 ホゼ先生からの質問を想像し、自己紹介をし合う活動を通して、

板書計画

黒板

Yes や No で答えられない答え方を学ぶ

大型提示装置

授業改善の視点

本時のねらいを達成させるために、以下の手立てを行う。

- ・スライドやジャムボードを使用し、多くの質問を効率よく集め、生徒が理解しやすくなるようにする。
- ・スライドやジャムボードを使用することで、生徒の主体的な家庭学習につながるようにする。

本時で使用するアプリ等

【教師】スライド、

【生徒】スライド、ジャムボード

☀ Monday, July 4th

Unit goal **ホゼ先生が知りたい自己紹介をしよう**

today's goal **ホゼ先生からの質問を想像し、質問に応じて答えられるようになる。**

★会話で大切なこと

→ 質問, 答え, あいつ, 反応, 相づち

まとめ

★What do you like ~? → I like ~. ★Do you ~? → Yes, I do. / No, I don't.

★How many ~ do you have? → I have ~.

【展開：4】 グループ活動でのスライドの例

一班

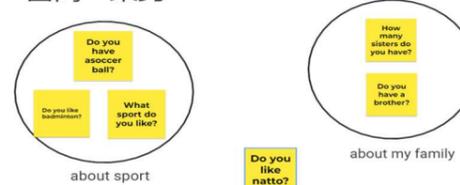
What Japanese anime do you like?

What sports do you like?

Do you like mangas?

【展開：5】 自己紹介の活動でのジャムボード

富岡 東男



導入 8分

1. 英語で挨拶をする (3分)

○スペルの確認も行う。生徒は立ち、教員と目線を合わせて行う

T: Hello, everyone! How are you? How's the weather? 等

S: Hello, Ms. Murata. I'm hot. / I'm good. It's sunny. 等

2. 本時のめあてをつかむ (5分)

○Unit goal の確認を全体で行う

T: どんな Unit goal で、それを達成するにはどのようなことをしたいですか?

S: どんな質問が来るのか知りたい。答えられるようになりたい。反応の仕方を練習したい。

T: 今日はどんな質問が実際に来るのか想定してみましょう。

<めあて> (today's goal)

ホゼ先生からの質問を想像し、質問に応じて答えられるようになる。

指導上の留意点 (★: 1人1台端末の活用)

○Unit goal を全体で確認し、その目標に向かっていけるようにする。

○めあてを生徒の言葉から作り、生徒が自分事としてとらえ、授業をうけるようにする。

追究 32分

3. 会話において重要な反応の仕方を確認する (5分)

T: まず、会話ではどんなことが大切ですか? どんなものがありますか? 練習しましょう。

S: 反応。質問。リアクション。Wow! Good! Cool! Me, too. 等

4. ホゼ先生の自己紹介を聞き、グループごとに質問を考え発表する (10分)

T: 4人グループになり、その自己紹介を聞いて、どんなことを質問したいと思うか考えてみましょう。(聞いた後に) 各グループで出した意見は各グループごとのスライドにまとめてください。

S: Do you like ~? How many ~? What do you ~?

T: それぞれのグループで実際にホゼ先生に質問してください。

ローテーションでは、廊下側の列を固定し、窓側の列が移動する

5. 生徒同士で自己紹介を行う (15分)

○グループごとに行う

T: 今度は皆さんが友達に自己紹介してみましょう。ジャムボードを使って、相手にした質問は入力して行ってください。

T: (1回目のローテーションの終了後) それでは、自分に寄せられた質問を見て、答え方をグループ内で話し合しましょう。

○ローテーションを行い、次のグループに移動し、5と同じ活動を行う。

○自分の名前が書かれたジャムボードに寄せられた質問を確認する。(2分)

指導上の留意点 (★: 1人1台端末の活用)

○生徒自らがいきなり活動に取り組むのではなく、一度 ALT の自己紹介をきいてから考えることで、これからの活動の流れを掴めるようにする。

★スライドやジャムボードを効果的に教員や生徒が使うことで、効率よく意見を集めたりまとめたりし、生徒が理解しやすくなるようにする。

【思考・判断・表現】

相手の自己紹介に応じた質問や応答を、伝えようとしている (1台端末・活動内での発言)

まとめ・振り返り 10分

6. 本時のまとめをする (5分)

T: 今日の授業から、具体的にどんな質問が出ましたか?

S: Do you like ~? How many ~? What do you ~?

T: では改めてこれらの質問と答え方をまとめましょう。

○全体で確認する

<まとめ>

・ What do you ~? ・ Do you ~?
→ I ~. → Yes, I do. / No, I don't.

・ How many ~?
→ I ~.

T: 次回は今回の授業を踏まえて、ホゼ先生が知りたいと思う自己紹介をしましょう。

7. 本時の振り返りを行う (5分)

<振り返り>

今日はホゼ先生に質問される可能性のある疑問文を知れた。答え方を改めて復習したい。

指導上の留意点 (★: 1人1台端末の活用)

○まとめは実際に出てきた質問文からまとめる。

○振り返りでは、今日のめあてを受け、分かったことや気付いたことは何かを記入するように伝える。

題材の内容

- (1) 学習指導要領の位置付け
A 表現 (2)
器楽の活動を通して、次の事項を身につけることができるよう指導する。
(*「次の事項」とは、下に示す項目(2)のA、イ、ウで示す「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」である。)
- (2) 身に付けさせたい資質・能力
- 【知識及び技能】**
- ・楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解することができる。
 - ・創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身につけることができる。
- 【思考力、判断力、表現力等】**
- ・器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫することができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】**
- ・音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に器楽表現の学習活動に取り組もうとしている。

系統・教材(題材)観

リコーダーによる器楽表現は小学校から取り組まれており、生徒たちにとっては身近な楽器と言える。アルトリコーダーの歴史は古く、過去、様々な作曲家がリコーダーのための曲を作曲してきた。特に、バロック時代にはバッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディなどの作曲家がリコーダーのための名曲を数多く残しており、音楽史や世界史と関連づけながら学習することに適している。

また、アルトリコーダーの音色はやわらかく、主旋律としても魅力的な楽器であるため、器楽表現活動を楽しみながら、音色の響きを味わうことに適している。さらに、今後、発展的な内容として取り組むアンサンブルや合奏では、柔らかい音色が良く溶け合うことで、全体の響きや各声部の音を聴き合いながら、他者と合わせて曲想やハーモニーの美しさを味わうことができる。

さらに、タンギングや奏法(アーティキュレーション)を工夫することで、それらによって曲想や楽曲の雰囲気できることを学習することができる。

この学習の後、3学期にはリコーダーアンサンブルの学習に取り組みながら、アルトリコーダーの音色や器楽合奏の魅力についてさらに学習を深めていく。

生徒の実態

- ※事前に小学校でのリコーダー演奏経験について、Google フォームにてアンケートを行った。
- 【知識及び技能】**
- ・90%以上の生徒がリコーダーの指使いに不安や苦手意識を持っている。タンギングについては約60%の生徒が不安や苦手意識を感じており、約35%の生徒は「タンギング」という言葉の意味についても理解ができていない。
- 【思考力、判断力、表現力等】**
- ・リコーダーで表現するときに工夫していることに「強弱」と答えた生徒が多かったが、曲の雰囲気やイメージに合った強弱を思考・判断し、表現している生徒は少ない。
- 【学びに向かう力、人間性等】**
- ・リコーダー演奏に8割以上の生徒が苦手意識を感じているが、音楽活動を楽しみながら主体的に学習に取り組もうとしている。中学校はじめての1学期であるため、まだ緊張感も感じられるが、友だちと意見を出し合ったり、協働して取り組もうとしたりする姿は見られる。

題材の目標及び評価規準

- (1) 題材の目標
アルトリコーダー演奏に関わる基礎的な知識や技能を習得しながらアルトリコーダーの音色の美しさを知覚し、奏法による雰囲気の違いを味わう活動を通して、それらを活用しながら曲にふさわしい表現を創意工夫する。
- (2) 評価規準
- 【知識・技能(ア)】**
- ・アルトリコーダーの音色や響きと奏法の関わりについて理解している。①
 - ・創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、アルトリコーダーで表現している。②
- 【思考・判断・表現(イ)】**
- ・アルトリコーダーの演奏に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら曲にふさわしい表現を創意工夫している。
- 【主体的に学習に取り組む態度(ウ)】**
- ・アルトリコーダーを演奏する活動を楽しみながら、主体的・協働的に表現活動に取り組もうとしている。

指導計画

時	学習活動	※全5時間予定
1	・楽器の構造や、姿勢・タンギングなどの基礎的な技能を学び、息の使い方やタンギングによって雰囲気や音色が変わることをつかむ。 【冷たい息・あたたかい息・やわらかいタンギング・鋭いタンギング】 「ア①」ワークシート 《題材のめあて》アルトリコーダーで曲の雰囲気やイメージを表現できるようにしよう。	
2	・4つの奏法(スタッカート・ノンレガート・ポルタート・レガート)を学び、それぞれの奏法による雰囲気の違いを味わう。 【ピタゴラスイッチによる比較】 「ア②」録音	
3	・「喜びの歌」を練習する。(階名の記入) ・自分がイメージする「喜びの歌」に合う奏法を選択し、楽譜に記入する。→ 【PDF化する】 「イ」楽譜	
4	・奏法を工夫した「喜びの歌」を録音する。「イ」録音 ・他者の録音を聴いて、同じ曲でも強弱や奏法によって表情が変えられることを見つける。「ウ」ワークシート	
5	・交響曲第9番「合唱つき」第4楽章を鑑賞し、「喜びの歌」にふさわしい強弱や奏法を吟味し、全体で合奏する。「イ」	

指導方針

- ★教師用デジタル教科書に含まれている演奏家動画を見せることで、正しく音を出す方法や美しい音を出す方法を視覚的に理解し、確かな技能につなげることができるようにする。
- ・4つの奏法を比較することで、同じ曲でも奏法によって表情が変わるおもしろさを味わうことができるようにする。
- ・『「〇〇な」喜びの歌』というタイトルを考えさせることで、自己のイメージに奏法を関連づけて、「喜びの歌」を表情豊かに表現することができるようにする。
- ・3つの選択肢(「元気な」「優雅な」「びっくりな」)を与えることで、イメージが浮かばない生徒も課題を設定できるようにする。
- ★タブレットで生徒それぞれが自分の演奏を録音し、お互いの演奏を鑑賞し合いながら良い点を自分の演奏に生かすことで、音を通して対話的に思考力・判断力・表現力を高めていくことができるようにする。
- ★生徒用デジタル教科書に記入されたアーティキュレーションや工夫点は、データとして印刷(PDF化)しオクリンクを通して提出させることで、評価の一助とする。
- ・原曲である交響曲第9番「合唱つき」第4楽章を鑑賞することで、自己のイメージで工夫する面白さとともに、原曲の雰囲気を尊重して演奏することの大切さも学ぶことができるようにする。

本時の学習

【ねらい】「喜びの歌」のリコーダー演奏について、自己のイメージ（『「〇〇な」喜びの歌』）と奏法を関連づける学習を通して、表情豊かに演奏することができるようにする。

板書計画

教室ホワイトボード

大型提示装置

【めあて】「喜びの歌」を表情豊かに演奏するには？

<工夫できそう!> **奏法** (スタカート、ノンレガート、フォルテ、レガート) **強弱** (P.f. < >) **速度** **音色** **拍子** **リズム** **旋律** **変化** **反復** **和音** **形式** **呼応** **調性** **短調** **長調**

① 練習 (10)分
② 録音 5分
③ 鑑賞 10分

まとめ
表情豊かに演奏するには...
→ 奏法や強弱意識がよい!

振り返り
(同じ曲でも、奏法を工夫すると表情がついた。
奏法や強弱を変えると色々な表情がつけられるよ!)

【展開4】他者の演奏を聴きまとめ、振り返る。



喜びの歌 (びぶらな) Lv. ベートーヴェン

山下 見人

J-116-126

ソプラノリコーダー(S)

授業改善の視点

本時のねらいを達成させるために、以下の手立てを行う。

- ・自分のイメージにふさわしい奏法を関連づけて、「喜びの歌」を表情豊かに表現することができるように、前時に『「〇〇な」喜びの歌』という自己課題を設定し、本時の追求に生かせるようにする。
- ・同じ曲でも奏法によって表情を変えられることを、他者の録音を聴き比べることで理解できるようにする。

本時で使用するアプリ等

- 【教師】デジタル教科書（教師用）オクリンク
- 【生徒】デジタル教科書（生徒用）オクリンク

導入 10分

1. 前時からのめあてと、本時の学習内容を確認する。

T: 前回からのめあてを確認しましょう。

<めあて> 「喜びの歌」を、表情豊かに演奏するには？

T: 工夫できそうな音楽を形づくっている要素は？

S: 奏法、強弱

T: 奏法、強弱の種類は？

S: ポルタート、スタカート、レガート、ノンレガート
フォルテ、ピアノ、クレシェンド、デクレシェンド

T: 今日は、前回それぞれが工夫した楽譜を見ながら練習し、タブレットで録音しましょう。「めあて」に迫るためには、お互いの録音をどうしたらよいでしょう？

S: 聴き合う。

S: そうですね。お互いの録音を聴き合ってみるとおもしろいかもしれませんね。

指導上の留意点 (★: 1人1台端末の活用)

- ・前時を振り返ることで、前時と本時の学習内容とのつながりを感じながら授業に取り組むことができるようにする。

追究 25分

2. 生徒それぞれが自己のイメージ（『「〇〇な」喜びの歌』）を表現するために、奏法を工夫しながら練習する。

T: では、前回立てた自己課題（『「〇〇な」喜びの歌』）を意識しながら練習しましょう。練習時間は何分必要ですか？

S: 20分。15分。5分。

T: では、間を取って10分にしましょう。

S: (練習)

3. 『「〇〇な」喜びの歌』を録音する。

T: では、録音を始めます。5分間、オクリンク上で録音してください。何度も録音し、一番良かったものを提出して下さい。では始めて下さい。

S: (録音)

T: (5分後) 前回印刷(PDF化)した楽譜と繋げて提出BOXに送って下さい。

指導上の留意点 (★: 1人1台端末の活用)

【思考・判断・表現】

自己のイメージにふさわしい奏法や強弱を工夫しながら、表情豊かに「喜びの歌」を演奏することができる。(デジタル教科書PDF・録音)

★演奏を録音することで、お互いの演奏を鑑賞することができるようにする。

★PDF化された楽譜も添付することで、それぞれの工夫点を視覚的に捉えながら、演奏を聴き合うことができるようにする。

・他者の音が録音に混ざらないように、距離を取って学習する。

まとめ・振り返り 15分

4. 他者の録音を聴いて、同じ曲でも奏法によって表情を変えられることを確認し、振り返りシートにまとめる。

T: 友だちの録音を聴いて気づいたことをまとめ、学習の振り返りを書きましょう。

S: 同じ曲でも、奏法を工夫すると表情がついた。奏法を変えると、色々な表情がつけられておもしろい。表情豊かに演奏するには、奏法や強弱を意識すると良い。

<振り返り>

- ・同じ曲でも、奏法や強弱を工夫すると表情がついた。
- ・奏法を変えると、色々な表情がつけられておもしろい。
- ・表情豊かに演奏するには、奏法や強弱を意識すると良い。

指導上の留意点 (★: 1人1台端末の活用)

★オクリンクで送られた複数の生徒録音を全体で鑑賞することで、同じ曲でも奏法によって表情を変えられることのおもしろさを味わうことができるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

他者の録音を聴いて学んだことを、主体的に自分の言葉でまとめている。(振り返りシート)